

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470103807		
法人名	医療法人 博光会		
事業所名	グループホーム つかがわ		
所在地	大分市東春日町5 - 25		
自己評価作成日	平成24年10月8日	評価結果市町村受理日	平成24年12月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成24年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 御家族からの信頼を受けて、看取りケアを行っています。そのために病院や訪問看護ステーションと連携を取りながら、緩やかで穏やかな終末を送ってもらえる支援しています 地域と交流を深めるため、お祭りや盆踊りなど地域行事に参加したり、デイケアを開放して地域の方を招いたりして、地域に根付いた支援を心掛けています グループホームの中だけでケアするのではなく、デイケア・小規模多機能・デイサービスなどの法人内他事業所と協力し合いながら行き来して、介護部全体で生活を支えています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 地域との交流を深めるとともに、介護教室や相談窓口などを通して、事業所の力を活かした地域貢献ができています。 職員は積極的に研修や勉強会に参加し、質の向上に努めている。職員同士のチームワークもとれている。 母体が医療法人であり、医療面の連携が取れており、終末期および看取りのケアが充実している。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、名札の裏や事業所内に掲示して共有し、年度の目標にも反映させながら実施している。”地域に密着した生活支援”という理念に基づき、地域の方々と関わりも持ちつつ生活し続けられるよう努力している	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を全職員で共有しており、地域に密着した生活支援を実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の美容室・スーパーなど積極的に利用させてもらっている。地域の祭りでは立ち寄り所として参加し、防災訓練も自治会と合同で行った。夏にはホーム前の公園での盆踊りに主体的に手伝い交流の機会が作れた	事業所の前の公園の清掃は何年間も続けており、地区の老人会の行事には積極的に参加している。保育所、小学校との交流、地域の商店や美容室の利用を通して、日常的に地域との交流ができています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会などに講師として出向いたり、デイケアを開放して地域の方々に認知症に対する理解を深めて頂くための話や具体的な支援方法、介護保険の利用について伝えている。介護相談も受けている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動や利用者の生活状況について報告し、地域の方、ご家族の方々の意見をお聞きしている。伺った貴重な意見は、日常のサービスに活かし、利用者の生活がより豊かになるよう努力している	運営推進会議には、毎回、委員全員の参加があり、活発な意見交換が行われている。出された意見は、日常のサービスに活かされている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の主催する研修などに参加し、不明な点は相談して連絡を取っている。運営推進会議の議事録は、直接市に持って行き、事業所の運営状況を話したり、取り組みについても写真など見て頂きながら説明している	市の担当者に運営状況や取り組みの説明を行ったり、相談する際は運営推進会議録を必ず持参するなど連携を取っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修に参加し、全職員に報告する場を設け、正しく理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日常の場面でどのような行為が身体拘束に当たるのか、折をみながら具体的に話すようにしている	身体拘束について研修を実施し、全職員で、拘束をしないケアに取り組んでいる。困難事例に対し、身体拘束委員会を立ち上げ、家族も交え何度も検討を行った。その結果、安全を優先し、ベッド柵の利用に至っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	関係法についても研修会に参加し、全職員へ報告する場を設け、虐待防止に努めている。利用者の心身状態に気を配るとともに、家族との関係性にも注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については、専門家の勉強会に参加している。身元引受人に対し、制度を利用した方が良いと思われる方には説明を行う。実際に利用する場合は医師に紹介して成年後見制度の活用に結びつくこともあった		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に事前に見学して頂いている。契約時は、ご家族に時間をかけて不安や疑問点を解決しながら十分な説明を行い、理解・納得された上で締結している。いつでも相談しやすい雰囲気作りを心掛けている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に意見箱を設置し、自由に入れることができ、また面会・家族会の際に意見を言いやすい環境作りを心掛けている。アンケート調査を年1回行い、改善が必要な際には全員で話し合い反映させるようにしている	年1回アンケートを実施している。また、面会時や家族会の際は、意見の出しやすい雰囲気づくりに努め、出された思いや意見を反映している。利用者のケアだけでなく、家族ケアの必要性を重視し、きめ細やかな家族支援を行っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の自己申告書や全体会議、ユニット会議の場にて職員の意見を情報収集し、同じ目標に向かってケアできるようにしている。そのため一人一人のモチベーションアップにも繋がると考えている	年2回の自己申告書や個人面談を実施するとともに、全体会議、ユニット会議や朝礼終了時などに職員の意見を収集し、運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与時、人事考課制度を用いて評価を行い、その後の個人面接では目標や課題を明確にしている。個人のモチベーションアップのために院内外研修を多く取り入れる環境作りに努力している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの年数や役割りに合わせた外部研修、内部研修への参加の機会は多い。また、職員自らがテーマを決め、勉強会を企画し、全体会議の場で発表するなど自己研鑽の機会を意図的に増やしている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会主催の研修会や交換実習、他施設見学会などに参加し、同業者との交流の機会を作っている。現在、連絡会の事務局として活動しており、同業者と積極的に意見交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の違いから来る本人の不安を理解し、特に入所時には気を配って関わりを多くし、知り得た情報は集約して職員間で共有し、生活環境作りに努めている。人的環境が何よりも大切であることを意識している		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が中心となって家族と面談し、疑問点は特に一つ一つ十分に説明、遠方の家族には特にその要望を取り入れ、介護計画にも盛り込んで安心してもらえる環境作りに努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	通所か入所かの見極めや通所でも泊りのできるサービスがよいのか等、本人の状態や家族の生活状況に配慮した柔軟なサービス方法を考え、またそれが出来る体制が整っている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ること、出来ないことを見極め、出来る部分はその力を発揮してもらうよう努めている。利用者から教わる場面を意図的に作り、また精神的にも職員が癒されたりと、相互に助け合う関係を築いている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が全てしてしまわず家族に出来る事は協力を求め、本人との関係が途切れないよう働きかけている。遠方の家族にも手紙や電話で近況報告し、アドバイスを頂くなど職員と家族が協力し合う関係が出来ている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけのお店や美容院など聞いてそこにお連れしたり、馴染みの人に会いに行ったり、本人の行きたい場所には行けるような支援している。法事、葬式、結婚式の時など、職員が1対1で付き添うこともあった	馴染みの店や家族、知人との交流など、利用者一人ひとりの思いに細やかに対応しており、馴染みの場所や人との関係が途切れないよう働きかけを行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの座席や、ホールでの居場所なども利用者同士の間人関係を考慮して配置したり、外出の際もお互いの関わりを配慮したメンバー構成を考えて出掛ける事で、利用者同士で気遣う言葉がよく聞こえている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームでは看取りまで行っているので元気なうちに退所した事例が無い。死亡退所後は、ご家族へ電話や葉書きを出すなどして関係は継続している。ご家族自身の相談に乗り、支援することもあった		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の「快」を求めて、職員一人一人がその思いを探り、知り得た情報をケアに活かしている。家族からも、本人の性格、好き嫌い、暮らし方の意向など様々な話を聞き、本人の気持ちに近づけるよう努力している	「認知症のためのケアマネジメント センター方式」を用いて、本人の意向や情報を全職員で共有することで、家族を含めて本人が快と思えることを大切にしながら支援している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力を得て、本人の職歴、経歴、生活歴、なじみの暮らし方などの情報をもらい、また以前のサービス利用時の様子も情報をもらい、本人の暮らしを把握するよう努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の気持ちを大切に、ある程度決められた予定があっても、その日の心身状態を考慮して替えたりと、無理強いせず一人一人の思いを優先させたケアを大事にしている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が主に介護計画を作成しているが、全職員がその人の思いや課題などの情報を挙げて、担当職員に集めている。家族からもケアにおける要望を聞いて今最も必要な事を考えた上で計画作成している	本人や家族の意見や要望と、全職員からの情報を集めて、担当職員が中心になって計画を作成している。週1回の評価と月1回のモニタリングを計画の見直しに活かしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン実施表にて日々の実践状況を確認し、ケース記録には実践の様子を記入している。週1回の評価、月1回のモニタリングを通して分析し、情報の共有を図っている。それら情報は見直しに活かしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム内のみならず、他部署の協力を得て、デイサービス、デイケア、小規模多機能の良さを活用し、体操やレクリエーション、創作活動等に参加する。その人に合った柔軟な支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設前の公園へ散歩し、子供達と触れ合ったり、地域の催し物や盆踊りなどに参加し、近隣住民と関わる機会を作った。また、定期的に保育園児が訪問してくれる。公民館でのサークル活動にも参加させて頂いている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	便宜上、母体である医療法人がかかりつけ医になる場合が多いが、要望があれば、かかりつけ医は変更しなくても良いことを説明している。他病院への受診にも柔軟にに応じており、職員が送迎や付き添いを行う	かかりつけ医としては母体の医療法人が主となっているが、本人や家族の希望に応じて、柔軟に対応し、職員が送迎や付き添いを行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の病院とは、密な連携を取り、定期的な受診と往診を行ってもらい、また訪問看護師が月に1度健康チェックに来ている。日々の細かい身体状況は、他部署の看護師に相談できる体制ができています		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人の病院へ入院した時は、本人の情報提供を介護サマリーにて伝える。週一回の病院カンファレンスに介護部長が出席し、入院中の情報を得て、早期退院ができるよう働きかけている。他病院に入院時も情報提供し、面会を通じて早期退院をお願いしている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した時の指針についての説明を行う。重度化した際には改めて話し合いの場を設け、終末期が近づいた際には、主治医を交えた最終的な話し合いを行う。家族の意向を取り入れて、医療、家族を含めたチームを組み、終末支援に取り組む	マニュアルを作成し、終末期や看取りの方針を全職員で共有している。契約時や状況変化に応じて家族と話し合いを行いながら、本人の思いや家族の意向に沿って看取りを実施している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日本赤十字病院から講師を招いての心肺蘇生法の勉強会を年1回、また日赤救急法研修を受けた職員による応急手当の勉強会を年2回行って、全職員が緊急時の対応が出来るように勉強している		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の登院訓練、毎月の通報訓練、利用者が参加した避難訓練、夜間想定訓練を実施している。地域の方にも参加頂き、災害時の協力をお願いしている。地域の災害訓練へも医療拠点として参加・協力している	年2回の避難訓練、登院訓練や、月1回の通報訓練、夜間想定訓練など、利用者も含めた訓練を実施している。事業所の訓練には地域の方も参加し、また、地域の防災訓練にも事業所が参加するなど地域との協力体制ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄、居室などプライバシーに関わる部分は特に注意を払い、外部の方や実習生にはその説明を行っている。年配者であることを踏まえ、尊敬の気持ちを持って言葉遣いや態度に気を配るように努めている	会議や研修会で、プライバシー保護について学習する機会をもっている。日常的に入浴や排泄の時など尊厳を損なわない言葉かけに留意している。特に、実習生やボランティアにはプライバシー保護についての指導を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着る服を本人に選んでもらったり、飲み物やおやつも本人の希望を聞いて提供している。スーパー等へ買い出しに出掛け選んで頂くこともある。行事へは本人の意向を大切に、内容を分かり易く説明して参加を促す		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴等ある程度時間は決まっているものの本人の意向に合わせ時間を変更したり、日を替えることもある。他の行事、散歩等もその方の希望とペースに合わせ、無理強いはずせずその時の気分をみて支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望する行きつけの美容室にお連れしている。おしゃれができ、季節に合った衣類が着られるように本人の好みの服を家族に準備して頂いている。外出の際にはお化粧をしたり、よそ行きの服に着替えている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は食べやすく工夫し、温度や盛り付けにも気を配っている。おしぼり配り、下膳、皿拭きなど出来ることは利用者にも手伝って頂く。手作り料理では希望を取り入れたメニューをできる限り一緒に作っている	食事は楽しく食べることを基本に、温度や盛りつけに配慮し、季節に合せた行事食や、手作り料理の日は利用者と一緒に考え、買物や調理をしている。ランチョンマットも利用者とともに作り、テーブルを囲んで和やかな雰囲気です。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量をチェックし、個々の量を確認している。誤嚥しやすい方にはトロミをつけ、好き嫌いのある方には好みの味に変更したり、食の細かい方は補食を準備したりと、食の進む食材を提供して栄養摂取に努めている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔状態に合わせた歯ブラシや口腔ブラシを用意し、口腔ケアの講習を受けて、その人に応じたケアを毎食後行っている。また訪問歯科に定期的に診てもらい、清潔保持のアドバイスも頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄、排便チェック表をつけ、本人の排泄リズムを把握して、職員間で共有しながら、その人に合わせた誘導、介助を行っている。夜間はオムツの方でも日中はトイレでの排泄が出来るよう支援している	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本に声かけ、誘導、介助を行っている。オムツを夜間利用する人もいるが、日中は尿取りパット、リハビリパンツなどを使用し、自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、食事量、牛乳やヨーグルト、程度の運動を取り入れ予防に努めている。なるべく下剤は使用せず自然排便となるよう取り組んでいる。排便困難が続く時には、医師に相談し、指導を受けている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できる環境を整え、気分やタイミングを見たり、好みに合わせた入浴スタイルを大切にしている。天然温泉であることを伝え、楽しみにされている。また、職員とのコミュニケーションの機会にもなっている	天然温泉であることから、個々の希望やタイミングに合わせ、随時入浴ができ、利用者も入浴を楽しみにしている。また、個浴なので、利用者と職員のコミュニケーションの場にもなっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもその方の状況に応じて、昼寝や臥床して休んでもらったり、季節に応じて居室の室温や寝具の調整している。夏は涼しく、冬は温かく、安眠できるように支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診によって、薬が変更になったり、臨時薬が出た際は必ず情報を伝え状態確認を行う。薬の保管には薬箱を使用し、ミスがないよう三重チェックをして確認するよう努めている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式で細かくアセスメントを行い、本人らしい生活について話し合い情報を共有している。好きな事、楽しみの援助を大切に、業務の手を止めてでも出来る限りの支援をするよう努めている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	少しの時間を見つけて、外出したり、外の空気に触れられるように努めている。計画していなくても、利用者の要望やその日の天気など考えた上で急遽ドライブに出掛けたり、外食やケーキを食べに行くなどの支援を行っている	散歩や買物、公園の清掃など、利用者全員が機会をとらえては外出ができるよう支援している。利用者や家族の要望に応じて、外食やドライブなどができるよう柔軟な対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かり金は職員が責任をもって管理し、間違いのないようチェックしている。必要な物は本人と一緒に買い物に行き、自分で選び購入する。支払いも本人ができるように財布を手渡し、見守りや一部介助している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	2ヶ月に1度は、写真付きの手紙を家族に出している。その際、名前や題字だけでも書ける方には書いてもらう。電話は、家族了承のもと、希望があれば掛けられるよう支援している。携帯電話を持っている方もいる		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の光、風を取り入れ、ぬくもりを感じられるよう空間作りをととても大切にしている。玄関、棚の上、ベランダには季節の植物を生け、室内の壁には季節に合わせたタペストリーなど飾ることにより、今の季節が視覚的や雰囲気を感じる事ができるよう工夫している	手作りのタペストリーやのれん、昔懐かしい生活用品などが飾られ、家庭的な雰囲気や季節感を感じるよう工夫している。また、ソファの配置や丸椅子応用のテーブルなどで、利用者一人ひとりが居心地良く過ごせるよう配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲間と一緒にになれるよう希望の位置を確認しながら、居心地の良い場所が提供できるよう工夫している。本人の落ち着ける場所が幾つもあり、思い思いに好きな場所で過ごすことができる		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたタンスを設置し、家族に昔馴染みの品、写真など持ってきてもらい飾りつけている。いつでも本人の趣味の作品など見ることができ、居心地よく安心して過ごせるよう工夫している	馴染みの家具や品物を置いたり、利用者の作品や家族との写真などが飾ってあり、それぞれの居室が個性的で居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室は、場所が分かるようにプレートを付けている。手すりに色付きテープを巻くなど分かりやすいような工夫もした。居室には、表札を掲げたり、本人用ののれんを見て、部屋の区別が分かるようになっている		